



朗読音声のダウンロード
Audio download

よ まえ
★読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.

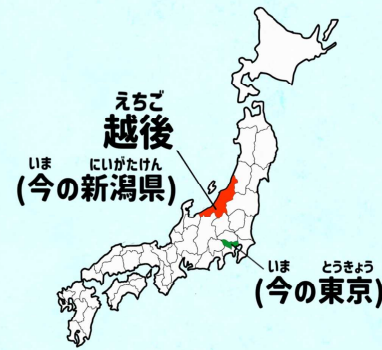


LEVEL
2 Web
Tadoku
Books

かがみ
鏡のない村



これは、むかしむかしのお話です。
越後（今の新潟県）のある村に
正助という男が住んでいました。
正助はお父さんと暮らして
いました。



ある日、お父さんが病気になりました。
正助は、一生懸命お父さんの世話を
しました。でも、お父さんは死んで
しまいました。



正助は毎日、墓参りをしました。
 水や食べ物を持ってお父さんのお墓に
 行くのです。結婚してから毎日行きました。
 十八年間、一日も休みませんでした。
 村の人们は、
 「正助は本当にrippな男だ」
 と言いました。



ある日、殿様がその話を聞いて、正助を
 お城に呼びました。
 殿様「正助か」
 正助「はい」
 殿様「お父さんが死んでから十八年間、
 毎日墓参りをしていると聞いたぞ」
 正助「はい」
 殿様「いい息子だな。rippだ」
 正助「いいえ、私は父さんの墓参りを
 しているだけですから」



殿様「いや、だれにもできることではない。」

正助、おまえはりっぱだ。

きれいな着物をやるぞ」

正助「着物はあります」

殿様「じゃあ、広い畑をやるぞ」

正助「畑もあります」

殿様「じゃあ、金をやるぞ」

正助「金はありません。でも、

金はないほうがいいです。

たくさん金があると働きませんから」



殿様「じゃあ、何もほしくないのか」

正助「ほしいものはありません。でも、

お願いがあります」

殿様「何だ。言いなさい」

正助「死んだ父さんに会いたいです」

殿様「え？」

殿様は困りました。



殿様は、小さな声で家来に聞きました。
 殿様「正助は父親に似ているか？」
 家来「はい、とても似ています」
 殿様「じゃあ、あの鏡の入った箱を
 持ってこい」



家来は、鏡の入った箱を持ってきました。

殿様「正助、この箱の中を見なさい」

正助「はい」

正助は箱の中を見ました。



正助「父さん！ここにいたのか！」

正助は、鏡の中の自分の顔を見て、お父さんがいると思いました。

この村の人たちは、まだだれも鏡を見たことがない

のです。正助は鏡の中のお父さんの顔を見て、

うれしくて泣きました。鏡の中のお父さんも

泣きました。

正助「あー、父さん、泣かないでください。

でも、父さん、若くなつたなあ」

殿様「その箱を大切にしなさい。しかし、だれにも

見せてはいけないよ」



正助は、鏡をもらって、喜んで家に
帰りました。そして、鏡の箱を納屋に
持っていきました。それから、毎朝、毎晩、
納屋に行きました。

奥さんのおみつは心配しました。
「正助さんは、毎朝、毎晩、納屋に
行くけれど、どうしてだろう？」



ある日、おみつは正助が畑に行った後、
納屋に入りました。すると、おみつの
知らない箱があります。おみつが箱を開けると…、
「あつ、女だ！ 女がいる！」
おみつは、びっくりしました。
鏡の中の女もびっくりしました。
「あんたはだれ？ どこから来たんだ？」
おみつも鏡を見たことがないのです。



しょうすけ 正助が帰ってきました。
しょうすけ 正助 「おい、おみつ、今帰ったよ」

おみつ 「……」

しょうすけ 正助 「おなかがすいた、ごはんはまだか？」

おみつ 「……」

しょうすけ 正助 「おみつ、どうしたんだ？ 病気か？」

おみつ 「納屋の中の女はだれですか？」

しょうすけ 正助 「納屋の中の女？ え？ ああ、

あの箱の中を見たんだな。

あれは父さんだよ」

おみつ 「父さん？ いいえ、女です……。

あの女はだれですか」



おみつが正助を叩きました。

しょうすけ 正助 「あ、痛い！」

おみつ 「ばか、ばか！」

しょうすけ 正助 「痛い、痛い、痛い！」

となり 隣の寺の尼さん（女のお坊さん）が

ふたり 二人の声を聞いて、正助の家に来ました。

あま 尼 「正助、どうしましたか？ おみつ、

泣かないで」

おみつ 「納屋の中に……」

あま 尼 「納屋の中に？」

おみつ 「納屋の中に女がいるんです」



尼^{あま} 「えー？女^{おんな}が？」

正助^{しょうすけ} 「あれは、父^{とう}さんです。女^{おんな}じゃありません」

おみつ 「いいえ、女^{おんな}です！箱^{はこ}の中^{なか}に女^{おんな}が

いるんです」

正助^{しょうすけ} 「いいや、父^{とう}さんだ。女^{おんな}じゃない！」

尼^{あま} 「じゃあ、私^{わたし}が納屋^{なや}に見^みに行きま
しょう」

尼^{あま}さんは、納屋^{なや}に入^{はい}っていききました。そして、

箱^{はこ}を開^あけました。尼^{あま}さんも鏡^{かがみ}を見^みたことが

ありません。

尼^{あま} 「あー、女^{おんな}だ。女^{おんな}がいる。でも…」



尼^{あま}さんは納屋^{なや}から出^でてきました。

尼^{あま} 「正助^{しょうすけ}、おみつ、喧嘩^{けんか}は終^おわり！

箱^{はこ}の中^{なか}には、女^{おんな}がいます。でも、

だいじょうぶ。女^{おんな}は悪いこと^{わる}を

したと思^{おも}ったのでしよう。

もう尼^{あま}さんになっ^なっていましたよ」





NPO多言語多読

tadoku.org



この作品はクリエイティブ・コモンズ表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスの下に提供されています。

This book is licensed under CC BY-NC-ND 4.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

かがみ むら
鏡のない村

発行日：2026年1月31日

再話/監修：NPO多言語多読

挿絵：池田あきつ